

## U-32 Young Officials Camp

## 参加報告書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	B.LEAGUE U15 FRIENDLY GAME 2018					
●日程	平成30年1月5日 (金)		～	平成30年1月6日 (土)		
●会場	浦安市運動公園総合体育館					
●講師	平 育雄様 片寄 達様 佐藤 誠様 加藤 誉樹様 漆間 大悟様 上田 篤拓様(1/5) 関口 知之様 平 育雄様 有澤 重行様 堀内 純様 細田 知宏様 上田 篤拓様(1/6)					
●スケジュール	平成30年1月5日 (金)					
	9:00 開講式 9:10 講師講話(平 育雄様 上田 篤拓様 加藤 誉樹様) 12:00 実技開始 20:00 夕食懇親会 10:00 終了					
	平成30年1月6日 (土)					
	9:00 ワークショップ(映像を用いてディスカッション) 11:00 実技開始 16:45 閉講式					
●担当試合	平成30年1月5日 (金)		13:00	～	13:30	ゲーム形式:8分(流し)ー1分ー8分
	対戦カード	富山		VS	大阪	
	主審	主審	大倉	副審	山口 氏(長崎)	副審 大井 氏(埼玉)
	講師/主任	佐藤 誠様				
	講評	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メカニクスの大きな崩れはなくスムーズに行えている。</li> <li>・お互いでアイコンタクトを取り、</li> <li>・リードのポジショニングについて</li> <li>①コーナー付近にボールがあり、ショットやドライブがある時、リードはボールラインまで広がり、体の向きをエンドラインと平行にして、3pts vs 2ptsをトレイルにアシストすること。ファールがあった時も同様に、トレイルが対応できない時にコールすること。</li> <li>②ボールエントリーがミッドレーンやセンターサイドにある時、ローテーションがスムーズにできるよう、ク+D46ロースダウンポジションに直接入ることを忘れないようにすること。</li> <li>・トレイルのポジショニングについて</li> <li>①ボールレベルが下がった時にトレイルもレフリーディフェンスができるポジショニングを意識すること。</li> <li>・リバウンドファールがあった時は、次に攻めるチームのディレクションをすぐに出せるように今後練習すること。</li> </ul>				
自己の感想	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クレーで午前中の講義内容を意識してできていたと思う。ただ、ボールを必要以上に追ってしまい、トレイルからセンターのローテーションが遅れたり、気づかないケースがあったので注意しないといけないと感じた。また、トレイルからセンターへのローテーション中にペイント内をピックする意識をもっと持たないとオフボールでのプレイが多くなった時に対応が遅れるなど感じるので注意したい。</li> </ul>					

## U-32 Young Officials Camp

## 参加報告書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	B.LEAGUE U15 FRIENDLY GAME 2018						
●日程	平成30年1月5日 (金)		～	平成30年1月6日 (土)			
●会場	浦安市運動公園総合体育館						
●講師	平 育雄様 片寄 達様 佐藤 誠様 加藤 誉樹様 漆間 大悟様 上田 篤拓様(1/5) 関口 知之様 平 育雄様 有澤 重行様 堀内 純様 細田 知宏様 上田 篤拓様(1/6)						
●スケジュール	平成30年1月5日 (金)						
	9:00 開講式 9:10 講師講話(平 育雄様 上田 篤拓様 加藤 誉樹様) 12:00 実技開始 20:00 夕食懇親会 10:00 終了						
	平成30年1月6日 (土)						
	9:00 ワークショップ(映像を用いてディスカッション) 11:00 実技開始 16:45 閉講式						
●担当試合	平成30年1月5日 (金)		15:00	～	15:30	ゲーム形式:8分(流し)ー1分ー8分	
	対戦カード	福栄中		VS	福島		
	主審	主審	山口 氏(長崎)	副審	大井 氏(埼玉)	副審	大倉
	講師/主任	漆間 大悟様 片寄 達様					
	講評	<p>○漆間 氏</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・メカはスムーズに行えている。</li> <li>・声の使い方や笛の吹き方をもっと意識すること。TOレポート、アウトオブバウンズなどを伝える時に会場全体を釘づけにするくらい大きな声を出すこと、選手へ声かけする時に笛を外さず声を出すこと、例えばアウトオブバウンズでどちらボールなのか微妙なケースの時は笛を吹いた後に間を取り、会場の視線を集めた後に大きな声でどちらのボールかを言うのもプレゼンテーションのひとつである。もっと工夫して、自分にあった形を見つけるようにすること。</li> <li>・ファールを吹いた後はショットなのかスローインなのかを早く示すこと。</li> </ul> <p>○片寄 氏</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・メカはスムーズである。</li> <li>・トレイルでボールを追う時にもっと余裕をもって追うこと。みんなボールがスタートしたら、一緒に追いかけているが、一呼吸おいてから追う方がビックピクチャーで視野を確保できる。</li> </ul>					
自己の感想	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1本目のゲームのアドバイスを実践することで、クルーでより協力できたと思う。</li> <li>・声の出し方、笛の吹き方など普段意識していないとできないなど実感した。</li> <li>・プレゼンテーションが強く見える時とそうでない時の差があると指摘していただいた。自分の心境がかなり影響しているのだなと感ずることができた。</li> </ul>						

## U-32 Young Officials Camp

## 参加報告書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	B.LEAGUE U15 FRIENDLY GAME 2018			
●日程	平成30年1月5日 (金) ~		平成30年1月6日 (土)	
●会場	浦安市運動公園総合体育館			
●講師	平 育雄様 片寄 達様 佐藤 誠様 加藤 誉樹様 漆間 大悟様 上田 篤拓様(1/5) 関口 知之様 平 育雄様 有澤 重行様 堀内 純様 細田 知宏様 上田 篤拓様(1/6)			
●スケジュール	平成30年1月5日 (金)			
	9:00 開講式 9:10 講師講話(平 育雄様 上田 篤拓様 加藤 誉樹様) 12:00 実技開始 20:00 夕食懇親会 10:00 終了			
	平成30年1月6日 (土)			
	9:00 ワークショップ(映像を用いてディスカッション) 11:00 実技開始 16:45 閉講式			
●担当試合	平成30年1月6日 (土) 11:00 ~ 11:30		ゲーム形式:8分(流し)-1分-8分	
	対戦カード	下貝塚中学		VS 群馬
	主審	主審 大井 氏(埼玉)	副審 大倉	副審 山口 氏(長崎)
	講師/主任	関口 知之様		
	講評	<ul style="list-style-type: none"> <li>・声を使おうと意識しているのは伝わるが、もっと使い方の工夫すること。ゲームのリスタートの時やアウトオブバウンズの時などゲームをスムーズに運営するために声をどんどん使っていくこと。</li> <li>・全員まだまだボールを追っている。プレイのチェックイン、チェックアウトがクレーに伝わっていないから、不安でボールを追っているのだと思う。もっとクレーに伝わるようにチェックインしてあげること。</li> </ul>		
自己の感想	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プレイにチェックインした時のクレーへの伝え方について、体の向きであったり、ポジションアジャストの仕方であったり、伝えるための工夫が必要だと感じた。</li> <li>・声の使い方について、すぐにトライできる点なので、次のゲームでも注意しようを思った。</li> </ul>			

## U-32 Young Officials Camp

## 参加報告書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	B.LEAGUE U15 FRIENDLY GAME 2018					
●日程	平成30年1月5日 (金) ~		平成30年1月6日 (土)			
●会場	浦安市運動公園総合体育館					
●講師	平 育雄様 片寄 達様 佐藤 誠様 加藤 誉樹様 漆間 大悟様 上田 篤拓様(1/5) 関口 知之様 平 育雄様 有澤 重行様 堀内 純様 細田 知宏様 上田 篤拓様(1/6)					
●スケジュール	平成30年1月5日 (金)					
	9:00 開講式 9:10 講師講話(平 育雄様 上田 篤拓様 加藤 誉樹様) 12:00 実技開始 20:00 夕食懇親会 10:00 終了					
	平成30年1月6日 (土)					
	9:00 ワークショップ(映像を用いてディスカッション) 11:00 実技開始 16:45 閉講式					
●担当試合	平成30年1月6日 (土) 13:00 ~ 13:30		ゲーム形式:8分(流し)ー1分ー8分			
	対戦カード	市川第一中学		VS		日の出中学
	主審	主審	大倉	副審	政氏 氏(北海道)	副審 松本 氏(愛知)
	講師/主任	細田 知宏 様				
	講評	<p>・ボールエントリーでセンターサイドにボールが運ばれてきて、コフィンコーナー付近でアクティブなマッチアップがある時はリードがそれを感じて早くローテーションをしてあげること。トレイルも早くハーフコートに入り、リードがローテーションできるようにすること。ボールマンに対して絶対にレフリーがひとりついている状態を常に作れるように心掛けること。</p> <p>・身長があまり大きくないチームでトルソーより下の方で手のヒットが多いゲームでは3人のトライアングルが大きくなりすぎないように注意すること。トライアングルを小さくして対応するの方が良い場合もある。</p>				
自己の感想	<p>・センターサイドでの状況を早く感じる事の大切さ、リードローテーションでセンターをプッシュしてあげると同時にトレイルもその状況を同様に感じ取り、リードが早くローテーションできるようにボールを追いすぎず、早くフロントコートに入る事の大切さを体験できた。</p>					

## U-32 Young Officials Camp

## 参加報告書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	B.LEAGUE U15 FRIENDLY GAME 2018					
●日程	平成30年1月5日 (金)		～	平成30年1月6日 (土)		
●会場	浦安市運動公園総合体育館					
●講師	平 育雄様 片寄 達様 佐藤 誠様 加藤 誉樹様 漆間 大悟様 上田 篤拓様(1/5) 関口 知之様 平 育雄様 有澤 重行様 堀内 純様 細田 知宏様 上田 篤拓様(1/6)					
●スケジュール	平成30年1月5日 (金)					
	9:00 開講式 9:10 講師講話(平 育雄様 上田 篤拓様 加藤 誉樹様) 12:00 実技開始 20:00 夕食懇親会 10:00 終了					
	平成30年1月6日 (土)					
	9:00 ワークショップ(映像を用いてディスカッション) 11:00 実技開始 16:45 閉講式					
●担当試合	平成30年1月6日 (土) 14:30		～	15:00		ゲーム形式:8分(流し)ー1分ー8分
	対戦カード	西宮		VS		栃木
	主審	主審	大倉	副審	桑原氏(東京)	副審 松永氏(長崎)
	講師/主任	有澤 重行様 平 育雄様				
	講評	<p>○有澤氏</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・メカは概ね問題なくできている。途中、メカが崩れそうになった時も合図を出して、ポジションをベシックな形に戻せた時の協力は良かった。</li> <li>・メインクロックがスタートせずにファウルが起きた時に3人集まって話をし、マジックタイムで正しい時間に修正できた点は今後も生かしてほしい。誰か1人が正確な情報を持ち、それをクルーで共有することが重要。</li> <li>・ファウルコールはプライマリーエリア、プライマリーアングルを持っているレフリーがコールしているので良い。ダブルコールになった時もアイコンタクトを取り、どちらがレポートに行った方が良いか確認している点も良い。</li> </ul> <p>○平氏</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バスケットの審判において変わってはいけない部分と変わっていい部分の両方が見えた試合であった。メインクロックの処置でマジックタイムで時間を訂正したが、そもそもプレイが始まり、クロックがスタートしていなければゲームを止めて、やり直しをさせるべきである。</li> <li>・メカも重要だがバスケットの理解、試合の流れを感じ取ることは忘れてはいけない。</li> </ul>				
自己の感想	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メインクロック、ショットクロック管理の大切さを改めて体験できた。訂正の時はクルーのうち1人が正しい情報を持っていたので、訂正ができた。これが誰も分からないとなるとトラブルの元になるので非常に良い経験ができた。</li> <li>・プライマリー、セカンダリーについて、まだまだ理解が必要だが、クルーでアイコンタクトを取り、誰がレポートに行った方がいいのかを協力してできた部分は良かったと思う。</li> </ul>					

## U-32 Young Officials Camp

## 参加報告書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	B.LEAGUE U15 FRIENDLY GAME 2018						
●日程	平成30年1月5日		(金)	～	平成30年1月6日		(土)
●会場	浦安市運動公園総合体育館						
●講師	平 育雄様 片寄 達様 佐藤 誠様 加藤 誉樹様 漆間 大悟様 上田 篤拓様(1/5) 関口 知之様 平 育雄様 有澤 重行様 堀内 純様 細田 知宏様 上田 篤拓様(1/6)						
●スケジュール	平成30年1月5日 (金)						
	9:00 開講式 9:10 講師講話(平 育雄様 上田 篤拓様 加藤 誉樹様) 12:00 実技開始 20:00 夕食懇親会 10:00 終了						
	平成30年1月6日 (土)						
	9:00 ワークショップ(映像を用いてディスカッション) 11:00 実技開始 16:45 閉講式						
●担当試合	平成30年1月6日		(土)	16:00	～	16:30	ゲーム形式:8分(流し)ー1分ー8分
	対戦カード	富山		VS		群馬	
	主審	主審	政氏 氏(北海道)	副審	松永 氏(長崎)	副審	大倉
	講師/主任	関口 知之様					
	講評	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2日間で色々な事を学んだと思うが、それを1つずつ確実に自分のものにしていくこと。</li> <li>・このゲームレベルなのでメカは崩れていないが、もっとレベルが上がった時にいかに基本に忠実にできるかが大切である。</li> <li>・今回は3POメカの講習だから、メカばかりに目が行きがちであるが、判定にももっとこだわってほしい。判定についてはまだまだ。もっと研鑽をつみ、洗礼して欲しい。</li> </ul>					
自己の感想	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まだまだボールを追いすぎて、クレーの動きに気付いていない部分がある。気づいた時にはリードローテーションが終わって、慌ててポジション移動した時もあった。講評で言われた「いかに基本に忠実にできるか」が大切だと感じた。判定についても力をつけないと次のステップに繋げることができないので、どのゲームにおいてもトライしていかなくてはと再確認できた。</li> </ul>						

大阪府バスケットボール協会審判委員会 御中

U-32 Young Officials Camp 参加報告書

大阪府バスケットボール協会審判員 大倉 哲也

- 1、日時:平成30年1月5日(金)~6日(土)
- 2、会場:浦安市運動公園総合体育館
- 3、大会:B.LEAGUE U-15 FRIENDLY GAME 2018
- 4、スケジュール

●1月5日(金)

- 9:00~9:10 開講式
- 9:10~10:00 講義① 3PO メカニクスについて 上田 篤拓 氏
- 10:00~11:00 講義② レフリーに求められる要素 加藤 誉樹 氏
- 12:00~19:00 実技研修(別紙報告書あり)
- 19:00~19:30 コート研修(加藤氏、漆間氏によるデモンストレーション)
- 20:00~22:00 懇親会

●1月6日(土)

- 9:00~10:30 ワークショップ 映像を用いて英語によるディスカッション
- 11:00~16:30 実技研修(別紙報告書あり)
- 16:45~16:50 閉講式

5、研修内容

○はじめに(平 育雄 氏)

この研修の早期育成プロジェクトとして2010年より始まった。目的は①国際審判員養成 ②日本のTop-Refの育成である。(2013年度クリップを使用)

・早い段階から国際審判員資格取得へのモチベーションを高める。

語学 会話 ルール コミュニケーション能力 人間性 社会性 環境整備(家庭 職場)etc

・早い段階から国内のTop-Game および審判に触れる機会を持つ。

判定 判定基準 ゲームコントロール(現在は使用していない言葉) メカニクスの重要性

当時はメカニクスの重要性をあまり言われてなかったが、現在は違うことを理解すること。

この研修に参加している人は国際審判になる事を目的に集まっているので、何となく上手くなりたいなど曖昧な感じではなく、明確な目標を持ち、時間を無駄にしないこと。

そして、日頃の準備を積み重ねることが大事である。審判はとにかく準備することが大事である。

・準備とは…

試合前の準備、試合後の準備があるが、何のためにするのか、それは「次のゲームにつなげるため」である。以前までは漠然と話をしていた部分が、現在は映像を用いることで具体的な準備ができる。逆に言うと今の流れに付いて行けないと割当はなくなる。

・JBA としての変化

YOC、早期育成と様々な形で研修をしているが、時代の流れと共に研修システムも変化していく。

・最後に…

みなさんが変化する＝日本が変化することに繋がる。

○講義① 3P0 メカニクスについて(上田 篤拓 氏) ※映像を用いてメカニクスの説明

・Primary Coverage

トレイル・リード・センターでプライマリエリアを分けているが、それぞれのエリアのみを判定するわけではない。アングルとの関係が出てくる。

☆プレゲームカンファレンス

プライマリの絵を描いて3人の絵が同じ絵になるか、基礎的な知識がクルー全員に備わっているかどうかという部分で意外と違っていたりする。その微妙な差を埋めていくためのものである。

☆3P0 と2P0 について

3P0 と2P0 は別物であることを理解すること。重なる部分もあるが別物なので、それぞれのメカで教わっていることを実践してほしい。

・プライマリエリアとアングル

プライマリエリアとアングルを持っている人が1番手で判定をする人である。プライマリエリアとアングルではアングルがウェイトを占めているが、アングルを持っているからといって何でも判定していい訳ではない。プライマリエリアを重視しつつ、プライマリエリアのレフリーがアングルを失えば、他のレフリーにアングルが生まれるので、アングルを持っているレフリーが判定に参加していく。

・ストロングサイド

トレイルとリードがいるサイドのことを言う。コート縦に2分割して、ボールがあるサイドに2人のレフリーがいることが3P0 の強みである。ボールが移動したら、それに合わせてリードがローテーションしてストロングサイドを作ること。

・ボールラインとボールレベル

ボールライン: ボールがある位置からエンドラインに垂直におろしてきたライン(縦軸)

ボールレベル: ボールがある位置からエンドラインを平行にひくライン(横軸)

・リード

アウトサイドインでプレイを捉える。ボールラインを目安にポジションアジャストをすること。ボールが3Pライン付近にあればセットアップポジションから広がりボールラインを目安にポジションアジャスト、ボールがトップの位置にいけば、ボールラインが移動するので、クローズダウンしてポジションを移動する。ボールがセンターサイドに移動すればローテーションしてボールラインを目安にポジションアジャストする。



## ・センター

フリースローラインの延長線上がベーシックポジション。体の向きはサイドラインと平行。プレーに合わせてフリースローサークルを目安でポジションアジャストしていく。

## ・トレイル

基本的にリードと同様アウトサイドインでプレーを捉える。ボールレベルが下がれば、それを目安にポジションをアジャストしていく。

## ・ローテーション

### リード

ローテーションには3つのステージがある。(クローズダウン、ローテーション、フィニッシュ)リードのローテーションに合わせて、トレイル、センターもローテーションしていく。

### センター

ボールがセンターサイドに来た時、マッチアップにポジションアジャストすること。リードのローテーションが完成するまではセンターはセンターとしてマッチアップにステイすること。勝手にトレイルにならないように注意する。

### トレイル

ボールがセンターサイドにいき、センターがボールを受け取ったことを確認し、ピック・ザ・ペイントをしながら、センターへローテーションをする。

### トレイルからセンターでのローテーション

センターがボールを受け取る(アクセプト/チェックイン)動作を確認できれば、ボールを離して(リリース/チェックアウト)次のポジションへ移動する。この時にクルーにボールにチェックインしたことを伝えるようにアクションを起こすことが重要。

### リードとトレイルのチェックイン/チェックアウト(ポストプレイ)

ポストマンにボールが入り、リードがボールを受け取った(アクセプト/チェックイン)ことを、トレイルが確認できれば、トレイルはポストマンも視野に入れながら(リリース/チェックアウト)、ダブルチームに行くプレイヤーやカッティングしてくプレイヤーを把握する。

☆ボールをアクセプト/チェックインする、ボールをリリース/チェックアウトすること、つまりはプライマリの受け渡しである。

☆ローテーションでは常に何を見るべきか意識すること。アクティブなマッチアップはどれなのか、自分のプライマリで何があるのかを意識すること。

☆ベーシックを常に意識すること。難しいケースがあった時、ミスをした時ほどベーシックに戻ることに。

## ・今回の研修の目的

まずはリードのローテーションを覚えること。それにトレイルとセンターがアジャストすること。それから次のステ

ップに繋げていく。キーワードは3PO メカニクス、ベーシック、For the game である。

## ○講義② プロレフリーに求められる要素

まずは導入としてみなさんに質問したい。

What's the factor of elite referee? 各クルーでホワイトボードに記入。

ゲームコントロール ガイドライン プレゼンテーション メカの理解 バasketボールの理解 家庭の協力 チームワーク etc 様々な答えが出た。どれも間違いではない。

・Refereeが必要とされるのはなぜか。選手同士お互いのセルフジャッジで解決できるならばRefereeは必要ない。お互いのセルフジャッジで決着をつけられない部分があるから、Refereeが必要になってくる。点差が拮抗したシビアなゲームになればなるほど必要性は増す。選手が決められない部分を判定する、それがRefereeの役割である。

### ・プレゼンテーションの重要性

現在FIBAではプレゼンテーションは正しい判定と同じくらい重要視されている。同じ判定をしても力強さのあるプレゼンテーションの審判と弱々しいプレゼンテーションの審判では信頼性が全然違ってくる。

### ・プレゼンテーションの要素

Verbal Support: 声を使う

Signals : ジェスチャー

Strong Body : 強い体つき

In Charge : 責任

これらの要素がゲームコントロールの上で判定と同じくらい重要になってくる。信頼に繋がり、自信に繋がる。ゲームコントロールとは一定の枠内で管理、運営していくことをいう。特にIn chargeの部分でこのゲームの責任者であることがプレゼンテーションから伝えることができるようにする。それには、誠実さや謙虚さ、サービス精神を持ち、商品としてのゲームを提供していくこと。自信を持つことが、決して傲慢になったり、横柄な態度になったりしないこと。

### ・コミュニケーション

Word: 7%

Voice: 38%

Body Language: 55%

人は言葉でコミュニケーションをとっているが、実際に言葉で伝わっている部分はごくわずかである。コミュニケーションの9割は声のトーンであったり、大きさ、体から発せられる雰囲気から伝わっている。それだけプレゼンテーションが重要である。

サッカーのプロレフリー、NBAの女性レフリーの写真を見て、何が伝わってくるか？

カッコよさ アスリートのような雰囲気 力強さ 安心感 etc

これらの答えは全てこの2人レフリーの雰囲気から感じ取れるものである。言葉は発していないが、いつでも判定できるようなプレゼンテーションである。周りからどう見られて、どう捉えられるか分からないからこそプレゼンテーションで無言のメッセージを送れることが大切である。

### ・プレゲームカンファレンス

プレゲームカンファレンスでは何を話すのか。ガイドライン、メカニクス、チームの特徴、プレイヤーのスタッツなど様々な情報を頭に入れてからゲームに臨むこと。しかし、それが先入観に繋がらないように注意する。

## ○コート研修

※実技研修終了時間が大幅に遅れたため、加藤氏と漆間氏のデモンストレーションのみで終了

### ・ボールのアクセプト/チェックインについて

ボールを受け取った事をポジションアジャストしたり、肩の角度を変えたりして表現すること。クルーに伝えることが1番の目的。マッチアップ、ボールプレイにポジションアジャストすること。

### ・声の使い方

コールした時にナンバー、ショット or スローインをはっきりと声で示すこと。トラブルを回避するためにもすぐに示す。TOレポートは会場中に聞こえるように大きな声でナンバー、ファウルの種類、ショット or スローインをスコアラーに伝えること。

ゲーム中に声を使う際は笛を外さずに声を出すこと。いつ何時、何が起こるか分からないので、すぐに対応できるように笛はくわえておくこと。

### ・笛の使い方

基本はシングルで吹くこと。会場の注目を集めたいときにダブルで吹く。そして、会場中に聞こえる声で何が起きたのかをはっきりと言う。ダブルやトリプルを多用すると何が重要かボケてくる。何か重要なことを伝えたいから笛をダブルで吹いているのだから、多用しないこと。

## ○ワークショップ

・ここでは事前課題として与えられていた映像を分析し、それを英語のみでディスカッションするというものであった。1グループ6人で編成され、それぞれのグループで2台のノートパソコンを用意し、指定された時間の映像を分析し、3つのケースを発表した。

### ・上田 篤拓 氏より

なぜ英語でディスカッションするのか。アジア人は英語が母国語ではなく、流暢に話すことができないことをマイナスに捉えて、国際試合でもあまり欧米のグループや会話に入っていこうとしない傾向がある。それではいつまで絶っても仲間になれない。相手に何かを伝えようとして話すことで、伝えることができる。大事なのは言葉が話せなくても、伝えようとトライすること。

## ○研修を通しての感想

今回は将来のFIBA Referee、日本のTop-Refereeの早期育成を目的とした研修で、3POが研修のメインでした。講義では3POの基本事項の確認や映像を用いて分かりやすく説明していただき、3POの理解が深まりました。特に印象に残っていることはボールのアクセプト、リリースの部分で、今まで何気なくセンターサイドにボールがいったから、ローテーションをするという感じだったのが、相手がボールをアクセプトしたタイミングでボールをリリースして、次のポジションに変わっていくという具体的なタイミングを教えていただくことができました。逆にボールをアクセプトするレフリーは、それが相手に伝わるようにアクションを起こすことの重要性も同時に学ぶことができました。3人でお互いの状況を把握しながらレフリーをすることの大切さを再確認できました。まだまだ3POの理解を深めないといけません、今回の研修で得たものは大きいです。実技研修では講師の方々からタイムアウトやフリースロー中、インターバルでアドバイスをしていただき、その場で気づき、改善し、実践できるので、アドバイスからたくさんの事を学ぶことができました。そして、加藤氏の講義では、コミュニケーションの9割が声のトーンであったり、大きさ、体から発せられる雰囲気や伝わっているという部分でプレゼンテーションの重要性が伝わってきました。コート研修では実際にTOレポートのデモンストレーショ

ンをしていただき、声の大きさであったり、見栄え、レポートの仕方など見本になる事ばかりでした。プレゼンテーションであったり、TOレポートはすぐに取り組める部分なので、普段からもっと拘って取り組んでいこうと思います。また、この研修で多くの仲間ができました。研修中に色々な意見を出し合いながら、実技に臨んだり、お互いを見合ったりして、切磋琢磨できた事が刺激になりました。この研修で得たことを生かして、今後も自分の目指すステージに向け精進していきます。

この研修に参加する機会を与えていただき、本当にありがとうございました。